

令和3年度新年挨拶



津別町農業協同組合
代表理事組合長

佐野 成昭

新年明けましておめでとうございます。令和3年の年頭に際し、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様には、本年が希望に満ちた良い年であります様、心からお祝い申し上げます。

昨年は58年間にわたり、大通りの中心街に総合デパートとして営業し、その後、一階にはJ Aバンクとスーパーマーケット、二階にはJ A事務所として生まれ変わり、長きにわたり、皆様に御利用頂いて来ましたが、老朽化が進み、この度のまちなか再生計画の一環で新事務所を建築し5月7日より営業を開始致しました。これからも末永く組合員の皆様のご要望に丁寧に対応できる、明るく親しまれるJ Aを目指して参りますので宜しくお願い申し上げます。

昨年の当町農業はコロナ禍の影響が長期化し、今までの日常とは大きく変化した一年であり、4月の通常総会も書面による決議となり不安を抱えてのスタートになりました。作況については、春先より概ね順調に定植作業を終える事が出来ましたが、6月、7月とぐずつき気味の天候で心配されましたが、小麦は平年を上回る収量となり、その後については高温干ばつの影響を受け豆類、馬鈴薯に於いては品質低下、収量減となり甜菜、玉葱、粗飼料等も大

きな災害も無く収穫する事ができました。しかし、販売面ではコロナ禍の影響を受けて玉葱、畜産では価格低迷により組合員には大変厳しい年となり、これから先を見通せない状況にあります。

また、本年より有限会社だいちで実習を重ねた夫婦が、1月より独立して新規酪農経営を開始する事になりました。これからは地域の皆様や行政の皆様には、お世話になりますが、新しい経営体誕生を暖かく見守っていただければ幸いです。

そして、4月には東岡に有機酪農法人が3名の経営者による新たな複数戸法人が誕生する事になりました。行政、関係機関の皆様にお世話になり畜産クラスター事業を活用して生産基盤強化と安定生産できる体制が整いました。他府県では牛乳不足が深刻化している状況の中、北海道での牛乳増産がより一層期待されている所であります。

この様に時代の経過とともに農業環境が少子高齢化による農家減少、一戸当たり面積の増加、労働力不足等により様々な状況変化に対応すべく、次の戦略を組合員と共に情報を共有し進めて行く事が、津別町農業の発展と地域の維持に繋がると考えます。今後も家族経営を中心とした経営形態と複数戸法人による資本力を活かした、新たな取組による付加価値向上、地域農業の維持など支援して行く事が、これからの時代を背負う若い世代に活力と行動力、更には、仲間と共に時代変化に対応した戦略を自ら考えスピード感を持ち実現する事の協力を支援します。

J Aつべつは産声を上げてから70年を超えました。ここに至るまでには幾多の困難がありました。組合員のご支援を頂き今日まで歩み続ける事が出来ました事に深く感謝申し上げます。J Aの成長、発展の為に先輩方が築かれた礎を受け継いで行くことは、次世代を担う組合員の使命であり、我が町のJ Aを100年、更にその先を目指し持続可能な食料生産と所得の確保、土地基盤整備と土作りを継続的に進めて参ります。

本年の干支は、丑年で古くから酪農や農業で農家を助けてくれた大切な動物でした。大変な農作業を最後まで手伝ってくれる働きぶりから我慢、忍耐、これから

発展する良い事の前触れの年と言われていると思います。まさに、新型コロナウイルスにより社会全体が我慢、忍耐の時期にあります。その先の明るい農業、社会が来る事を皆様と共に願っています。

結びに、新事務所建設を契機に今まで以上に組合員の生活を守り安心して暮らせる戦略を皆様と共に考え、実行して参りますので宜しくお願い申し上げます。また、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されますが、健康管理には十分気を付け豊穰の秋を迎えられ、組合員、御家族の皆様により一層の御発展、御多幸を心から御祈念申し上げます。新年の御挨拶とさせていただきます。

謹んで新年のご挨拶を 申し上げます



- 代表理事組合長 佐野 成昭
- 常務理事 岡本 幸年
- 職務代行理事 安部 仁
- 理事 (総務常任委員長) 金一 和美
- 理事 (経済常任委員長) 石川 賢一
- 理事 迫田 浩司
- 理事 鹿中徳三郎
- 理事 稲部 隆浩
- 代表監事 長瀬 信一
- 監事 十河 誠

令和3年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会
代表理事会長

小野寺 俊幸

新年あけましておめでとうございます。
組合員並びに役職員の皆様には、コロナ禍にあってもその苦境にも負けず、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しても、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業は、米の作況指数が106の「良」、畑作物については収穫時期に一部地域に降雨による影響が見られたものの、平年並以上の結果となり、生乳も前年の実績を超える生産となり、地域、作目によつて違いはありますが概ね良い出来秋を迎えることが出来たと感じております。

しかしながら、昨年は、新型コロナウイルスとの戦いが長期化し、今までの日常とは大きく変化した1年でありました。農業分野においても例外ではなく各種イベントの自粛、外食・中食の需要減少等の影響により、各作物の更なる需給緩和が懸念されているところと見られます。今後は作物ごとの実態を踏まえた、国産・道産農畜産物の需要喚起・消費拡大を図るとともに、外国人技能実習生が入国できないことにより、農作業の人材確保にも大きな影響が出ておりますので、北海道、全国連とも連携し、JAGグループ北海道としてしっかりとその対応

を図ってまいります。

JAGグループ北海道では、昨年より道民の皆様に対し北海道農業から行動を起こすことで、農業と人、農村と都市、生産者と消費者の関係のあり方を見つめなおしていただくことを目的として「AGRI ACTION! HOKKAIDO」(アグリアクション北海道)と題した情報発信を北海道の支援もいただき、スタートいたしました。

「AGRI ACTION! HOKKAIDO」は次の3つのテーマを伝えることを目的としております。

①食料自給率に対する理解促進と行動変容の喚起

②農業には多様な働き方があるというところの周知とより多くの方が農業に携わっていただき、将来的に農業を仕事の選択肢として考えてもらおうこと(本業以外に副業として農業に親しむ人々を「パラレルノーカー」と命名)

③日頃から道産農畜産物を食している道民の皆様へ感謝を伝えること

本年は第29回JAG北海道大会の実践最終年であることから、この取組みと協同の力を梃子として「農業所得の増大」「多様な担い手の確保・育成」「食と農とつながるサポーター1550万人づくり」の目標達成に向けて、実践活動を強化してまいります。

結びになりますが、本年は辛丑年です。牛は古くから酪農や農業で人間を助けてくれた大切な動物でした。大変な農作業を最後まで手伝ってくれる働きぶりが、丑年は「我慢(耐える)」、「これから発

展する前触れ」というような年になると伝えられております。

この謂われにあやかり、新型コロナウイルスの1日も早い克服と皆様のご健勝、本年が豊穡の年となりますようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

農業は夢のある職業



津別町長

佐藤 多一

新年明けましておめでとうございます。

農業者の皆様におかれましては、日々の営農を通じ、地域農業と地域社会の振興発展にご尽力されていますことに、改めて敬意と感謝を申し上げます。

さて、昨年1月、中国武漢市から帰国した30代の男性が、国内最初の新型コロナウイルス感染者として発表され、今やその数は20万人に迫る勢いとなつています。第1波の頃に比べますと、人々の緊張感は薄らいでいるように感じられ、高齢者を主として死亡者が増加傾向にある中、一人一人が高い意識を持って感染対策を行うことが何よりも重要であると考えます。

こうしたコロナ禍の中、本町におきましても、町民の皆様と町内企業に対し種々の支援を行って来たところですが、その取組の一環として、JAGつべつが、二度にわたり農畜産物の還元販売を行っていただきましたことに厚くお礼を申し上げ

げる次第です。

さて、農業経営は、新型コロナウイルスの影響により業務用を中心に農畜産物の需要が減少し、一部作物と肉用牛の価格低下を招き厳しい状況となりましたが、生産量は総じて平年並みであったことから今後の価格上昇に期待を寄せているところです。

営農の根本である農地の基盤整備は、大規模で効率的な農業を行うため、平成27年に国営農地再編整備事業に着手し、令和6年度までを事業期間として進められているところですが、現在、事業が完成した場合は、順次作付けと収穫が行われ、農業者の方からは生産性の向上など事業効果が直に感じられると聞いているところです。本年度からは道営土地改良事業の調査を開始し、来年度より国営農地再編整備事業実施地区以外の区域において、順次農地の整備を行うこととしていきます。これに伴う農業者の負担につきましては、国営事業並みとする考えであり、こうした道営事業の推進により、更なる生産性の向上を期待するものです。両事業が完了するまでの予算の確保につきましては、これまで同様、引き続き代議士、道議の皆様のご支援をいただきながら関係機関とともに全力をあげて取り組んで参る考えです。

また、本町初の酪農型協業法人が、昨年度より畜産クラスター事業を活用して東岡地区に大規模なフリーストール牛舎を建設し、本年より本格的な生産を開始します。津別町発の日本初オーガニック牛乳が、より多くの人に飲まれ、その美味さ

を実感し、ファンになっていただけることを期待したいと思います。人口減少と高齢化が進む中、農業もその影響を受けているところですが、農業の効率化と規模拡大を目指した東岡地区法人のほか、町内の農地所有適格化法人についても、最先端のスマート農業の導入や農業機械の大型化が順次進められています。特に今後、5Gの技術要件である「高速大容量」「超信頼・低遅延」「多数同時接続」が進歩していく中、今後の農業生産力の拡大はもとより、農業が夢のある就業の場として魅力を増していくものと期待しているところです。

昨年は、JAつべつ新事務所が完成し、ひと足早く町なかの中心的建物として威風を放っています。本年3月には、役場複合庁舎と消防庁舎が完成する予定であり、その後、備品類の搬入を終え、5月連休明けにはオープンする予定としています。この2つの建物の出現により、JAつべつ新事務所と相まって町並みのイメージが相当変化するものと思います。その後、現役場庁舎と旧JA事務所跡に、複合商業施設、図書館、交通拠点、駐車場などを整備する計画であり、新型コロナウイルスの影響により、テレワークやふるさと回帰が始まっていると言われる状況を踏まえ、彼らから選ばれる町であるよう社会インフラの整備を進めていく考えです。

結びに、今年も「丑年」であり、「我慢」や「発展の前振れ」の年と言われています。コロナ禍にあつて食料の自給率が再認識され始めていますが、自給率とともに重要なテーマは「食の安全」であり、協同組合として、この「食の安全」を「儲け」という観点ではなく、組織の「価値観・世界観」として

守り抜いていることに誇りを感じていることと思います。本年が、農業にとつて輝かしい未来が芽吹く年となることを願いますとともに、JAつべつ組合員と役員の皆様はもとより、すべての農業関係者の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

年頭のご挨拶



網走農業改良普及センター
美幌支所 支所長
遠藤 良恵

あけましておめでとうございます。令和3年の新春を、ご家族の皆さま、地域の皆さまと共に迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より普及センターの活動にご理解とご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染防止を意識した1年であったことと思います。各種研修会や講習会は延期や中止を余儀なくされ、貴重な学びの機会も制限が多かったことと思われま

す。気象経過を振り返りますと、越冬期間の少雪により土壌凍結が進み、普及センターの調査地点でも最大60cmの凍結深を確認しました。

春先には、凍結によるほ場へのダメージを心配しましたが、融雪期・小麦の起生期・牧草の萌芽は平年より早く、地温の上昇を待つての植え付けにより、凍結の影

響を回避することが出来ました。

農耕期間(5月～9月)は、総じて高温小雨となり、生育への影響として、小豆の登熟が急激に進み成熟期が平年を14日早まる結果となりました。

各作物の収量は、小麦、たまねぎ、てんさいは平年を上回り、菜豆を除く豆類、ばれいしょ、牧草・飼料作物は平年を若干下回りました。

経営体の安定維持に寄与する基本的収量については、総じて確保ができたことと推察し、生産に携わる皆さんの基本技術の励行と日々の適切な栽培管理の賜と敬意を表すところです。

さて、令和3年の経営のスタートにあたり、各戸においては、すでに所得目標を踏まえた作付及び経営計画の作成、家族のイベント計画などを想定のことと思います。

普及センターも、令和3年度は5年ごとの新たな活動目標設定の年にあたり、地域の農業振興を踏まえた活動計画を策定中です。

各地で取り組みが進むスマート農業の推進においては、津別町も国のスマート農業実証事業を導入し、自動操舵技術による作業効率の向上、可変施肥による品質向上などの検証に協力連携しているところ。ICT機器を活用した地域の作業システムは、将来的な営農支援体制を含めて地域全体の生産構造を構築していくものと考えています。

畜産においては、令和2年度、有機酪農研究会が、消費者ニーズに更に呼応することとし国内初となるJGAP(家畜・畜産物)団体認証を取得しました。令和3年

度には、団体認証取得メンバーによる協業法人(イーストヒルズファーム)が、稼働予定。JGAPの取得、協業法人運営計画に際し、地域関係機関が一丸となった支援体制に参画させていただいております。

こうした取り組みは、今ある経営体が将来にわたり継続できる仕組みを作ること、新規就農できる体制があること、雇用の場が生まれること、環境に配慮した農業を展開すること、人々の働き方の改善と質の向上が図られることなど、SDGs(持続可能な開発目標)につながる位置づけを強く意識するところです。

時代を読みながらの協力連携課題に取り組み一方、普及センターの変わらぬ活動としては、地域に対応した各種調査の実施があります。農作物生育状況調査は、畑作物、飼料作物、たまねぎについて定点を設けており、その他試験場と連携した作物奨励品種決定現地調査、普及センター独自の畑作物・飼料作物等の現地試験でお世話になっております。令和2年度は、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種「コナヒメ」の適正施肥試験、牧草地の「ち密度」緩和のためのグラスティラー効果確認試験を実施し、地域での検証を行ってきま

した。私たちが地域で活動する上で大切にしていることは、「現地にしっかりと足を運ぶ」ということですが、現地で直接農業者と接して現場の情報をキャッチ出来ているか!?コロナ禍であるからこそ、現地情報の把握をしっかりと進めて行かなければ!と、思いを新たにするとこ

ろです。

さらには、普及センターの活動や取り組み内容がより「見える」よう、農業者の声を捉まえた情報発信や提案に努め、地域と共に目標に向かって行きたいと思えます。

結びとなりませんが、本年が輝かしい年となるとともに、皆さまの益々のご多幸とご発展をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶



網走川流域農業・漁業連携推進協議会会長
（網走漁業協同組合代表理事組合長）

新谷 哲也

津別町農業協同組合の組合員の皆様、役員の皆様、新年明けましておめでとうございませう。

平素より、網走川流域農業・漁業連携推進協議会（だいちとうみの会）の運営に關しまして、ご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

津別町農業協同組合と網走漁業協同組合、西網走漁業協同組合は平成19年以来、産業と流域環境について、継続して話し合いを行い、農業と漁業が連携して流域の環境を保全していこうと、平成22年11月25日共同宣言を致しました。農業と漁業は、網走川流域の中心的産業であり、流域の環境保全に向けた取り組みを進めそのことにより産業の持続性を強固にし、もっと「美味しい」「安全・安心」な食糧生産を

目指し、網走川流域の繋がりを意識して、お互いの産業を尊重・理解し、相互に多面的支援を行い、豊かな自然環境と共存しながら持続的に発展することを目的としたものです。

この共同宣言の内容を実現するため、網走川流域農業・漁業連携推進協議会（だいちとうみの会）を、平成23年5月20日に設立いたしました。協議会事業として令和2年度は、大地と海をつなぐ植樹、出前授業などの計画をしておりますが、新型コロナウイルスの感染拡大により実施が困難となり中止を余儀なくされました。

網走川流域が育む独自の文化や風土、そして豊かな海と大地の恵みを次世代に引き継ぐことのできる地域協働による人・産業・自然が共生する流域社会を目指すために、流域住民をはじめとした、網走川流域に関わる各種団体、企業、行政機関、大学、研究機関が交流・連携・情報交換ができる機会をつくり、人的ネットワークを築き、網走川流域の連携の輪を更に広げるため「だいちとうみの会」とは別組織となります。「網走川流域の会」を平成27年に設立し、令和2年度の通常総会については新型コロナウイルスの影響で議決権行使書面決議として開催を致しました。

又、網走川流域で有機農業や減農薬など河川的环境負荷低減につながる取組を実践している個人や団体組織に対して、網走漁業協同組合と西網走漁業協同組合から感謝と敬意を表す目的として、「漁業者からの応援証」を美幌町立美幌

中学校、石川農場、山本農産へ贈呈を致しました。漁業者からの応援証については、これまで17団体に贈呈しておりますが、平成29年12月7日に設立された「網走漁協・西網走漁協からの応援証受証者連携協議会」（応援証受証者の会・山田昭夫会長）の事業として、本年度受証された三団体の活動状況確認及び研修会を実施し、会員相互の連携・交流・情報交換が出来る機会をつくる活動が行われており、この応援証が少しでも農産物の消費拡大、網走川流域の環境保全のお役に立てればと思っております。

我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症が急速に拡大し、人の往来自粛や経済活動の制限により国内経済は厳しい状況が続く中、欧米では新型コロナウイルスワクチンの開発・実用化に向けた報道があり、感染再拡大への不安を持ちつつ経済活動を行うことについて予断を許さない状況が続いております。又、新たな貿易自由化に向けた消流対策に加え、担い手の育成や競争力強化への取組み、輸出の消流への影響等、各種課題に的確に対処していくことが求められています。

網走川流域の豊かな自然を大切にし、安全・安心な農畜産物、水産物を消費者の皆様へ届けることが我々生産者の使命だと思っております。

農業者、漁業者が連携するという全国でも珍しいこの取り組みの思いを、たくさんの人に伝え理解をいただけるよう、これからもより一層皆様と一緒に頑張ってまいりますと思っております。

結びになりますが、新しい年が皆様にとりまして良い年でありますようご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。





JA情報館



JA新事務所組合員家族見学開放デーを開催

12月5日(土)JA新事務所にて、『JA新事務所組合員家族見学開放デー』を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大の懸念から、当初4月に予定していた新事務所祝賀会は中止とさせて頂きましたが、組合員家族も新事務所内を見学してみたいとの要望に応じて今回の開催に至りました。

見学希望者30名来場のもと、佐野組合長・岡本常務



をはじめ管理職(課長以上)が、それぞれ1階事務所・金融店舗・役員会議室・2階会議室等の各フロアを使用用途等を説明しながら対応しました。参加された方は、主に組合員の家族が中心で、事務所内の各フロアを開放し、2階会議室ではJAのPR動画を再生してPRも併せて行いました。

地区懇談会を開催

12月1日(火)から3日(木)の3日間の日程で、12営農組合毎3班体制にて地区懇談会を開催しました。役職員が各営農組合へ訪問し、本年度の農業情勢報告・JA主要事業状況等の報告がされました。また、今後の小麦振興策・営農支援センター構想(MR)等について提案しました。令和2年3月の地区懇談会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、止むを得ず中止とさせて頂きましたが、今回の地区懇談会は、出席者のマスク着用・消毒の実施等の感染防止対策を徹底した上での開催となりました。

次回の地区懇談会は3月上旬を予定しています。



JA常勤理事と青年部・女性部・フレッシュミズとの意見交換会を開催

12月11日(金)JA会議室にて、『JA常勤理事と青年部・女性部・フレッシュミズとの意見交換会』を開催しました。JAからは、佐野組合長・岡本常務・稲部理事をはじめ各課長が出席し、青年部・女性部・フレッシュミズの各団体からは役員並びに各部長が出席しました。開催にあたり、佐野組合長から令和2年度の農業情勢・JA決算見込概要等の報告があり、岡本常務からは地区懇談会資料に基づき説明が行われました。その後、事前に各団体から提出された質問や要望事項等に基づき、3班に分かれてグループ形式で各団体から提出された事項に基づき活発な議論が行われました。各団体からの要望等を集約し、今後のJA運営並びに第10次中期経営計画・農業振興計画等の策定にあたっての指針として大変意義のある意見交換会となりました。





JA情報館



農業分野における外国人材受入研修会を開催

12月2日(水)JA会議室にて、各関係機関をはじめ、生産者・JA役員・JA管理職の16名参加のもと『農業分野における特定技能での外国人材受入研修会』を開催しました。社会保険労務士でもある杉田昌平弁護士を講師として招き、外国人材を受入する際の出入国関連法令や労働関係法令等の法律の概要や在留資格の制度や種類等について研修を行いました。



職員全体会議にて冬道運転マナー研修を開催

12月10日(水)業務終了後、全職員を対象とした職員全体会議を46名の職員参加のもと開催しました。開催にあたり、佐野組合長から令和2年度の農業情勢等の報告、『今年度については、新事務所への移転や役員改選がありました。また、新型コロナウイルス感染症拡大等により様々な分野に於いて影響がありました。これらの変化に対応すべく、組合員をはじめとする地域のニーズに対し、JAとして求められる事項



を意識して諸課題に迅速に取り組む必要があり、更なる意識向上が求められます』と開会挨拶がありました。岡本常務からは、12月1日～3日に実施された地区懇談会の概要を資料に基づき説明がありました。また、冬場に向けての運転マナー研修を、冬道運転の心構えや対策についてDVDを観ながら研修を行いました。さらに中西管理課長からは冬場の事務所周辺の除雪等について、全職員が協力して行う事を確認しました。

営農技術懇談会を開催

12月15日(火)JA会議室にて、生産者20名出席のもと令和2年度営農技術懇談会を開催しました。例年開催している営農技術懇談会は、多様化する営農技術に関する事例を各分野毎に講師より説明を受けました。網走農業改良普及センター美幌支所からは『津別町に於けるでん粉原料用ばれいしょ「コナヒメ」の適正施肥調査結果』ならびに『今年度の畑作物の生育概況』について報告があり、JAつべつ営農支援室木俣職員からは『圃場の排水対策と土づくり』と併せて、『土壌



凍結深制御技術と土壌凍結深推定計算システム』について説明がありました。また、ホクレン北見支所営農支援室からは『スマート農業の推進・ホクレンRTKシステム』について説明がありました。



JA情報館



津別町農業振興計画推進委員会を開催 『第9次津別町農業振興計画の点検・検証』

12月14日(月)JA会議室にて、津別町農業振興計画推進委員会を開催しました。第9次津別町農業振興計画は実施から2年が経過し、『輝く津別農業の構築を目指して』と掲げた重点項目の進捗状況について、各生産組織代表者・津別町・普及センター・農業士・JA役職員により点検と検証を行いました。開催にあたり、佐野 成昭 会長から新型コロナウイルスの問題は我々の日々の生活に多くの困難を与えているが、国民全体に『農業への関心を呼び起こさせるきっかけ』となっており、改めて農業の重要性が問われていると述べ、津別町農業振興計画は、津別町農業の更なる発展を実現する上で重要な施策を掲げており、組合員一人ひとりが自ら実践し、価値観を創造する事が大切であると示され会議が始まりました。組織の代表者からは、玉葱の施設整備について迅速に対応して欲しいとの意見や青年部が主体となる“新たなチャレンジ”作業支援体制について、ワークシェアリングのシステム化を早々に進めて欲しいとの要望がありました。閉会にあたり安部 仁 副会長からは、本委員会での意見・要望を踏まえ、時代にマッチした農業振興の実践とJA事業の執行にあたるとともに魅力ある津別町農業の確立を目指すとして委員会を閉じました。



アソビバ!つべつ 南瓜を使った料理教室を開催



JAつべつ青年部(部長 幾島 大智)は、津別町役場生涯学習課社会教育係と連携し町内の小学生を対象とした『アソビバ!つべつ』を組織し、野外活動を中心に『農業体験』を行っています。10月に子供達と一緒に植えた南瓜を収穫し、12月5日に収穫した南瓜で料理教室を開催しました。作った料理は『カボチャクッキー』『カボチャドーナツ』『カボチャ団子』の3品で子供達とJA青年部・JA女性部・フレッシュミズのみんなで6グループの班に分かれ、悪戦苦闘しながら楽しく料理を行いました。出来上がった料理は子供達へプレゼントし、今年一年間『アソビバ!つべつ』で育てたカボチャの生育をJAつべつ青年部 柏木 豊 書記長が写真を使い子供達へ教えたり、来年に向けてどの作物を作りたいか確認しました。



子供達は笑顔いっぱいになりながら料理とお話を聞いて、大人も子供も全員が楽しめた一日になりました。

女性部によるパン作りを実施

JAつべつ女性部(部長 迫田 彩由美)は、12月1日(火)津別町食品加工研修センターにて新型コロナウイルス感染症防止対策を実施し、部員10名が参加してパン作りを行いました。津別産小麦を使用し4回に分けて生地を作成しました。気温が低いので発酵するまでに通常より時間がかかりましたが、



多くの種類のパンを手際よく成型し焼き上げました。お子さん、お孫さん、家族のために愛情いっぱいのパンが出来上がりました。



フレッシュ・ミス『ヨガ』を体験

JAつべつフレッシュ・ミズ(会長 千葉 由佳子)は、12月8日(火)に津別町中央公民館2階研修室にて会員4名が参加してヨガ体験を行いました。網走市在住の佐々木愛美氏を講師に迎え、農作業や子育てで凝り固まった身体を開き、深い呼吸をすることで、心と体を整える内容でした。準備運動を行い、簡単なポーズから冷ややむみに効くつばを教えて頂き最後に瞑想を行いました。ヨガ終了後には、体が軽くなったという会員の声も聞かれました。新型コロナウイルス感染症防止対策を行い、少人数での開催でしたが充実した体験となりました。



JA事務所に自動体温検温装置 障がい者用インターホンを設置

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、11月下旬にJA事務所入口と金融店舗入口・生産資材店舗に自動体温検温装置(非接触自動検温システム)を設置しています。新型コロナウイルスや冬場のインフルエンザ蔓延防止対策として、JA事務所に入館の際にマスクを着けたまま非接触(50Cm位装置から離れる)で、顔を表示された円の部分に近づけると数秒でご自身の体温が測定されますので、入館の際にご利用願います。

尚、既に皆様にご協力を頂いていますが、JAに入館される方のマスクの着用・手指の消毒については、今後も引き続きご協力頂きます様宜しくお願いします。

また、JA正面玄関横に障がい者用のインターホン・点字・呼び鈴を設置しました。

障がい者用インターホンは金融店舗内に繋がります。

JAつべつは、今後とも地域社会とともに歩んで参ります。



年金友の会情報

第4回 ゲートボール大会

開催日:令和2年12月2日(水)

開催場所:豊永 屋内ゲートボール場

優勝	小野チーム 小野 勇・鍛冶 博光・糸尾 健一・今井 保・館野ヨシ子
準優勝	佐野チーム 佐野 信子・幅口 悦子・下川 敏章・山下 昌子・藤原 熊男
3位	土江チーム 土江 幸子・井上 隆幸・長尾 隆行・奥村 照子・竹内 武二
4位	山田チーム 山田 照夫・溝渕サカエ・佐藤 正明・大矢根キミ子・五島 良雄
5位	佐藤チーム 佐藤 朝代・柏木 茂・野本 弘子・細川 恵市・笠井キヨ子
6位	丸尾チーム 丸尾 諭・藤原 利信・和崎 トク・三上 孝子・手賀 武一・堂藤 優



報告事項

- ①令和2年11月末財務状況並びに決算予測について
- ②令和2年度経営所得安定対策に係る仮渡金の支払実績について
- ③農業共済金の支払見込について
- ④農業振興基金の運用状況について
- ⑤融資実行状況の報告について
- ⑥令和2年度クミカン清算状況について
- ⑦各常任委員会の顛末について
- ⑧各作物の状況及び生産者団体の活動状況について
- ⑨各課報告事項について

付議事項

- 議案第1号
監事監査結果について
- 議案第2号
出資金の持分譲渡並びに減口について
- 議案第3号
育児および介護休業規程の改正について
- 議案第4号
新規就農者に対する貸出金について
- 議案第5号
役員報酬等審議会委員の委嘱について

協議事項

- ①地区懇談会の意見集約と対応について
- ②令和3年度基本方針並びに部門別重点方針について
- ③同一労働同一賃金の対応について
- ④令和3年1～4月主要行事日程について

第十二回理事会報告
開催日
12月22日



春の新車フェア

2021.1.1→3.31ご契約分まで

4メーカー（トヨタ・スズキ・スバル・三菱）
「新車全車種対象」特別企画
業務用車種は、対象外となります。ご了承ください。



A ホクレン
present
ホクレンSSポイントカード
ホクレンSSポイント
30,000pt進呈!
給油所でいろいろ使える!
※当店はイメージです。商品が手に入るまで在庫がなくなり次第、予告なく終了いたします。

**乗用車
をご成約で
もれなく
プレゼント!**
※軽トラック・軽バンは除く
いずれか
おひとつ

B LOGOS
present
ロゴス4人用テント
ROSY Q-TOP リビング L-BJ
折りたたまれたフレームを伸ばして
ロックするだけなので
組立て簡単＆撤収もスピーディー。

軽トラック・
軽バンを
ご成約の方は

スタッドレス
タイヤ4本
プレゼント!
スチール
ホイール
付き

※成約記念品は事情により商品手配の遅れや代替品に変更させていただく場合がございますので、予めご了承ください。

JA 共済 オリジナル お得な自賠責共済セット割引

グルマスタ 自動車共済

- ★自身とご家族の保障
- ★相手方への保障
- ★お車の保障

JA 共済

JA ネットローン マイカーローン

おトクな金利を
今すぐチェック!

JAバンク 北海道

お車のことはJAグループにおまかせください!



お問い合わせ JAつべつ 生産資材課 (津別町字活汲512番地) TEL:0152-76-3430

JAグループ通信

■ JA北海道中央会



JAグループ北海道は、来年度以降においても、組合員の皆様が希望を持って営農できるよう、要請運動を展開してまいりました。9月末の概算要求決定前までの運動に加え、10月からはコロナ禍で需要が減少した作物への対策を求める運動を実施し、11月からは令和3年度農業関係予算や補正予算確保に向け、与党農林幹部や道内選出国會議員、農林水産省に対して働きかけを行いました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、例年どおりの要請とはなりませんでしたが、感染防止対策を講じた上での上京運動や議員会館や農林水産省と道内各地区をWEBで繋ぎ要請を実施するなど、コロナ禍ではありましたが最大限の対応を図り、道内生産現場の課題を伝えその解決策について提案してまいりました。

今後、要請内容や予算概要等の詳細は、JAグループ北海道農政NEWSウェブサイトに掲載しておりますので、ご確認願います。



▲自民党 宮下農林部会長への要請

JAグループ北海道農政NEWSウェブサイト

HPアドレス：
<https://ja-dosanko.jp/nousei/>
ID:nousei PASS:hokkaido



LINEで友達登録していただくと、
情勢等の更新情報をご連絡いたしますので、是非、登録願います。



■ JA北海道信連



還付金詐欺等の特殊詐欺による被害は、依然として減っていない状況にあります。JAバンクでは、窓口・ATMでの声掛けを継続して被害防止に努めるほか、北海道警察と連携した啓発活動にも取り組んでいます。10月～12月の3か月間、STVラジオ番組の中に準レギュラーコーナーを設け、道警の担当者から特殊詐欺の手口や注意するポイント、日頃からの備えについてリスナーにお知らせしました。



■ JA共済連北海道



JA共済では、『「特定重度疾病共済」資料請求キャンペーン』を実施しております。JA共済ホームページから「特定重度疾病共済」の資料をご請求いただいた方に、有村架純さん・浜辺美波さんが表紙の「オリジナルA5ノート」をもれなくプレゼントしております。キャンペーンは令和3年3月10日(水)までです。この機会にJA共済のホームページにアクセスいただけますようお願いしております！



JA共済ホームページアドレス<https://www.ja-kyosai.or.jp/>

■ ホクレン



ホクレンは、コーポレートメッセージ「つくる人を幸せに、食べる人を笑顔に」に込めた想いを伝えるオリジナルアニメーション「from North Field (フロム・ノース・フィールド)」の第2弾を制作、特設サイト (<https://www.from-north-field.jp/>) などで公開を始めました。5歳の少年を主人公に、道内の酪農家から都会の食卓までの「生乳の旅」を分かりやすく紹介しています。



■ JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。プレゼント付アンケートのコーナーもあり、1月末まで募集しております。

是非、JA北海道厚生連のホームページをご覧くださいアンケートへのご協力をお願いします。



JAグループ北海道の連合会・中央会の活動内容を紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

大地がひとを強くする。

AGRIACTION!
HOKKAIDO



1月下旬・2月上旬の主な行事

1月16日	土		2月1日	月	経営会議
17日	日		2日	火	年金友の役員協議会
18日	月	企画会議・年金友の会囲碁大会	3日	水	
19日	火	営農組合総会	4日	木	
20日	水	役員報酬等審議会	5日	金	
21日	木	経済常任委員会	6日	土	
22日	金	総務常任委員会	7日	日	
23日	土		8日	月	
24日	日		9日	火	
25日	月	安全衛生委員会・共済推進(～26日)	10日	水	
26日	火		11日	木	建国記念の日
27日	水	年金友の役員会議	12日	金	決算確定
28日	木	理事会・北農5連事業講習会	13日	土	閉庁日
29日	金	農政対策協議会総会	14日	日	
		決算棚卸監査	15日	月	企画会議
30日	土		16日	火	臨時理事会
31日	日		17日	水	監事監査(～22日)

新型コロナウイルスの影響により、中止・延期の場合があります。

年末年始の業務体制(令和2年～令和3年)

	令和2年 12/29(火)	12/30(水)	12/31(木)	令和3年 1/1(金)元旦	1/2(土)	1/3(日)	1/4(月)	1/5(火)	1/6(水)	1/7(木)	1/8(金)	1/9(土)
事務所	平常	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	平常	平常	平常	休業
活汲事業所	平常	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	平常	平常	平常	休業
貯金店舗	平常	平常	休業	休業	休業	休業	平常	平常	平常	平常	平常	休業
堆肥製造施設	平常	平常	休業	休業	休業	休業	平常	平常	平常	平常	平常	平常
給油所	平常	平常	平常 注③	休業	休業	平常 注③	平常	平常	平常	平常	平常	平常
(有)だいち (TMRセンター)	平常	平常	休業	休業	休業	休業	平常	平常	平常	平常	平常	平常

備考 ①仕事納めは12月29日とします。(事務所・活汲事業所) 貯金共済店舗については12月30日となります。
 ②仕事始め1月6日とします。(事務所・活汲事業所) 貯金店舗については1月4日となります。
 ③給油所は12月31日並びに1月3日(午前7時30分～午後5時)までの営業とし、元旦・1月2日は休業となります。
 4日から平常営業です。